



強さと 順応性

明るい
未来に
向けて
共に
進む

目次

会長メッセージ | 1ページ

2020年の財務実績の概要 | 5ページ

今年の振り返り | 6ページ

私たちのコミュニティ | 11ページ

当行の行員 | 14ページ

顧客プロフィール | 16ページ

2020年財務報告 | 22ページ

相対株価 | 24ページ

BOHの拠点と経済に関する情報 | 25ページ

エグゼクティブコミッティとオペレーティングコミッティ | 26ページ

取締役会 | 28ページ

株主情報 | 29ページ

強さと順応性

明るい未来に向けて

共に進む

1897年の設立当初から、バンク・オブ・ハワイはその強さと順応性を活かして様々な困難を乗り越えてきました。2020年も例外ではありませんでした。2020年は不確実性に満ちた1年でしたが、当行は株主、行員、お客様、コミュニティを引き続きサポートしました。

2015年、バンク・オブ・ハワイは熟練のカヌー職人 Nakoa Prejeanにカヌー *Ulu o ka lā* (「水平線に現れる太陽の最初の光」を指します) の制作を依頼しました。1年後にカヌーはお披露目されて祝福を受け、ホノルルのダウンタウンにある当行本店の改装グランドオープンにおいて公開されました。当報告書表紙の写真はNakoa Prejeanと本店長のLono Kealohaが協力して *ama* をカヌーに結び付けているものです。この写真のように、コミュニティの明るい未来に向けてお手伝いしていく中で、年月が経っても当行は今後とも協力というものに忠実であり続けます。

©2020年、バンク・オブ・ハワイ・コーポレーション。Bank of Hawaii®, Bank of Hawaii The Private Bank, Bankoh®およびバンク・オブ・ハワイのロゴは、バンク・オブ・ハワイの登録商標です。SimpliFi Mortgage, SimpliFi Arena、バンク・オブ・ハワイによるEASE、Kālaiサービスはバンク・オブ・ハワイの登録サービスマークです。Bankoh Investment Services, Inc.はバンク・オブ・ハワイのノンバンク子会社であり、FINRAとSIPCの会員です。Cardless CashはFISの商標です。本報告書(印刷物およびオンライン)に記載されているその他すべての商標およびサービスマークはそれぞれの所有者に帰属し、本報告書で使用するにより所有権を主張するものではありません。個人や本報告書に記載するその他の登録商標、ロゴ、ブランドまたはその他の名称もしくは由来の所有者は、本出版物を後援、承認、支持していません。

HawaiianMilesはHawaiian Airlines, Inc.の登録サービスマークです。

株主の皆様、



2020年はまさに一生に一度あるかないかの年であり、甚大な損失、課題、機会を伴う年となりました。

新型コロナウイルス感染症で50万人近くの米国人が亡くなるという大きな被害を受けました。さらに流行拡大が始まってから1年経った後も、1,000万人近くの米国人が景気低迷の影響で職を失ったままです。ここハワイでも観光業の低迷が記録的な失業を引き起こすこととなり、失業率は依然としてコロナ禍前の3倍の水準に高止まっています。

突如出現した新型ウイルスの大流行によって、世界、コミュニティ、もちろん当行にも深刻な課題が生じました。新型コロナウイルス感染症はまさに世界的な大流行となり、言うまでもなく世界のあらゆる主要な市場に影響を与えています。

コロナ禍によって、世界や国がより小さくまとまってつながりを深めるさまざまな機会が生まれたことは確かです。しかし、このような機会にも確実なものはなく、いまだに願望の域を出ていません。こうした状況にもかかわらず、私たちは希望を持ち続けています。このハワイにおいて、つながりという考え方が一段と真実味を帯びているのです。州や市の政府も地元企業コミュニティも、この危機を乗り越えるには力を合わせて協力する必要があることを早い段階から認識していました。官民セクターや慈善セクターからの寄付が、失業率の急上昇によって引き起こされた食料不足の解消に役立っています。

2020年

当行は保守的な姿勢を崩さず、潤沢な資金と流動性、有意義な市場におけるプレゼンスを維持し、この1年間で非常に良い状況で進みました。資本と準備金を十分に積み増すことができた一方で、行員、お客様、株主、コミュニティを支援してまいりました。これは突然の景気減退に見舞われる中では容易なことではありませんでした。コロナ禍を通して、ほぼ全ての株主指標において優秀な実績を出せたことを誇りに思います。

これまでに述べた損失や課題にも関わらず、当行は今後を見据えて期待感を持ち続けています。コロナ禍によって地域レベルでリーダーたちがつながりあう必要性は、かつてないほど高まりました。当行は市民活動として、そして慈善活動として積極的に関わってきました。コミュニティの前進を手助けする中で、当行には今あるニーズや課題を深く理解しているという自負があります。

健康と安全に対する懸念は短期間のうちに消費者の行動に変化をもたらしました。このような変化によって各種デジタル化が少なくとも数年は早められたと考えています。サービスチャネルやEコマースチャネルの双方について、お客様によるバンク・オブ・ハワイの利用方法が大きく変わってきているのがわかります。

当行はテクノロジー、デジタル対応、効率的な支店スペースに投資してきており、変化に順応できていることをお伝えでき嬉しく思います。去年のトレンドは今まで進んでいた変化を一段と速く進めることになったと考えています。弊行における21世紀型の時代に即した銀行サービスの提供を目指し続けることに、胸が高鳴る思いです。

コロナ禍を通して得た最も大きな機会は、おそらく、最も困難な期間を通して当行がお客様や行員に対して当行のコミットメントと支援を示し続けられたということでしょう。流行拡大の初期に、融資先の15%余りに代替的な返済オプションを提供することができました。関係者全員にとって幸運なことに、この割合は現在融資先の3.5%まで低下し、さらに減少し続けています。

行員に関しては、新たな生産性の高い方法で行員の配置と活用を進めることで、幸い強制的な人員削減を避けることができました。在宅勤務が進み、約3分の2の行員が対象となっています。テクノロジーの観点では、この切り替えはスムーズにきました。2021年は在宅勤務モデルに少しずつ手を加え続ける年になると考えています。最終的な結果として、未来に向けてより優秀かつ適切でうまく機能する、効率的な労働力が生み出されることになるでしょう。

この後の文章でこの点はより深く掘り下げていきます。

継続的な財務力

前述のとおり、長年にわたる保守的な姿勢や流動性と資本の強みによって、この異例の環境から生じた困難にも当行はうまく対応することができました。財務実績は地域、国、世界レベルでの流動的な状況を反映したものになりましたが、バンク・オブ・ハワイは引き続き堅調な業績を上げ、株主配当も途切れることなく実施しました。

希薄化後1株当たり利益は2019年は5.56ドルに対し、2020年は3.86ドルとなりました。ローン残高は2019年から8.6%増加して119億ドルとなり、預金残高は2019年から15.4%増加して182億ドルとなりました。年度末の総資産は2019年の181億ドルから増加し、過去最高の206億ドルとなりました。

ムーディーズ・インベスターズ・サービスから当行の預金格付Aa2が確認されたことを誇りに思います。2019年に当行は全米トップ15位の金融機関でしたが、この格付を経てトップ6位となり、ハワイでは最高位の金融機関となりました。さらに、フォーブス誌は12年連続で当行を「アメリカのベスト・バンク」に選出しました。

ハワイの経済

ハワイの年末時点での新型コロナウイルス感染率は全米最低レベルとなりました。しかし、世界的流行の波を受けてロックダウンが発令され、経済活動が妨げられました。特に、ハワイの観光業にとっては大きな打撃となりました。何百件というホテルを含め3,000社以上の企業が閉鎖され、ハワイの失業率は4月に最高の23.8%を記録し、その後、2020年12月には9.3%まで低下しています。ハワイ大学経済研究所(UHERO)の予想によると、2020年末にワクチン接種が始まったことで2021年の経済成長の見通しは改善しています。

2020年全体を通して、合計観光客数は73.8%減少の271万6,195人となりました。これに対して2019年の観光客数は1,050万人でした。12月後半から1月前半にかけてハワイ・ツーリズム・オーソリティが実施した調査では、コロナ禍にもかかわらず訪問者の90%が自身の旅行を「素晴らしかった」と評価していることがわかりました。事前検査による陰性結果があれば訪問者の隔離措置を免除するハワイの「セーフトラベル」プログラムは概ね順調に進んでおり、観光客を安全にハワイに呼び戻せるようになっています。

当行の主要市場であるオアフ島における平均的な一戸建て住宅価格の中央値は2019年の78万9,000ドルから5.2%上昇して2020年には83万ドルとなりました。コンドミニアムの平均中間価格は2019年の42万5,000ドルから2.4%上昇して43万5,000ドルとなりました。また、マウイ島とハワイ島における一戸建て住宅およびコンドミニアムの販売価格および住宅売却額の中央値も上昇基調となりました。カウアイ島では、一戸建て住宅価格の中央値は上昇していますが、コンドミニウムについては下落傾向です。ハワイの住宅市場は住宅ローンの記録的な低金利や競争の激化もあり、比較的安定した環境となっています。

コロナ禍の困難に立ち向かう

コロナ禍で会社を率いていくために、当行のリーダーシップチームは迅速かつ積極的に動き、変化し続ける新型コロナウイルスの新たな状況に順応していきました。バンク・オブ・ハワイ新型コロナウイルスに関するプランニング委員会が1月下旬に開催され、行内全体からリーダーが招集されました。

当初から、行員とお客様の健康と安全の確保、当行のお客様やコミュニティに対する不可欠な金融ニーズの提供、ハワイ州回復のカギとなるセクターに対する必要不可欠なサービスの提供を目標として掲げてきました。役員から現場に至るまで、行内のあらゆる階層を巻き込んで調整を続けています。コミュニティに対する多大な寄付や、施設の改装などを急ピッチで進め、健康面に配慮した新たな手順を支店ネットワークや施設の中に取り入れてきました。

私は、3月初旬にハワイ州議会のスコット・サイキ下院議長から招かれて、新型コロナウイルスに対する経済および金融の備えに関する特別委員会の共同議長を務めました。この委員会を立ち上げた目的は、各地の自治体や州政府の代表者、民間セクター、非営利団体と共に、ハワイ州下院に対して、州が受けた経済と金融の潜在的な影響について情報を提供し、短期的また長期的な影響軽減計画を策定し、新型コロナウイルスの感染状況や統計結果をモニタリングすることです。

追加的なデータの提供のため、バンク・オブ・ハワイ財団では新型コロナウイルスの流行が住民に与える影響や、企業の再開、旅行前検査プログラムといった方策への反応に関して、全州におよぶ包括的な調査2件について資金を提供しました。ベースライン調査が7月に、フォローアップ調査が12月に発表されました。調査結果では、コロナ禍の影響で住民の困窮が深刻化していることが浮き彫りになっただけでなく、回復に向けたアクション策定に役立つ所見も示されました。「ハワイにおける新型コロナウイルス感染症：事実とインサイト 第2巻」の調査については、www.boh.com/facts-figuresでご覧いただけます。

行員の幸福感の確保

3月中旬に州による公式的な在宅勤務命令が出される前に、当行では行員の健康と安全を守るために、全行員の60%をラップトップやタブレットを使った在宅勤務に切り替えました。チームメイトとの日常的なやり取りがなくなり戸惑った行員も多く

いたのは事実ですが、行員は引き続き素晴らしい顧客サービスを提供しています。

支店や施設の改装にも取り組みました。換気や空気の過を改善し、受付カウンターやその他出入りの多い場所などお客様とやり取りをする場所には透明アクリル板の仕切りを設置しました。また、健康管理規範に基づいた健康確認アプリも開発し、消毒手順を強化し、行員用に個人用防護具の在庫確保を継続しました。

新型コロナウイルス感染症の流行は短期収束が難しく、物理的規制やソーシャルディスタンスは今後も続くだろうと見込んでいます。行員は職責を管理するだけでなく、自身の家族の健康や家計に関する懸念にも対処しているため、当行では行員に対するサポートにも全力を尽くしています。ロックダウン中は、フルタイムとパートタイム双方の行員に対して現場勤務手当を追加支給し、コロナ禍でもセルフケアを行えるようにメンタルヘルスの施策も導入しました。

5月には週に1度、行員の家族向けに食事提供を始めました。バンコ・ミールズ・トゥ・ゴーは事前に梱包された4人家族向けの無料の食事です。食事を必要としない行員は高齢者や最前線で働く人など、食料不足に直面している方にご自身の食事を寄付することもできます。年末までに20万食近くが配布されました。食事に利用されなかった食料はアロハ・ハーベストに寄付されました。2020年末までに5,000ポンド近くの食料が寄付されることになりました。バンコ・ミールズ・トゥ・ゴーは2021年6月末まで延長されることになりました。

毎年、バンク・オブ・ハワイ財団奨学金の奨学生をお祝いしています。行員の子供や孫たちが奨学生として大学進学費用に資金を利用します。2020年にはこのお祝いをオンラインで開催し、お祝いの動画やソーシャルメディアで27名の奨学生を表彰しました。2020年の奨学生が受け取った金額は合計9万4,500ドルになります。プログラム開始以来、バンク・オブ・ハワイ財団はこの特別なプログラムを通して合計121名の奨学生に70万ドル以上を支給してきました。

バンク・オブ・ハワイでは常に、全てのチームメイトを尊重して受け入れる協調的な職場の整備を推進しています。しかしコロナ禍によって露呈した脆弱さもあり、当行の職場における独自のニーズを見直す機会となりました。2020年のイベントは今までとは異なった形になりましたが、オンラインで集まることを優先しました。多様性、平等性、協調性を模索するためのプログラムには、LGBTQ+のコミュニティを祝う「誇りを持って働く」や、職場の女性向けの「リーダーを務める女性」、軍関係者や退役軍人に敬意を表する機会などがありました。

「健康と安全に対する

懸念によって短期間で消費者の行動が変化しました。このような変化によって各種デジタル化が少なくとも数年は早まったと考えられています。」

コミュニティへの配慮

お互いを‘ohana、つまり家族として扱うことがバンク・オブ・ハワイの文化の中心にあります。コロナ禍の困難に共に対応していく中で、当行のお客様、同僚、ビジネスパートナー、より幅広いコミュニティのメンバー全員に配慮し、サポートを行っています。

バンク・オブ・ハワイ財団は4月に、ハワイにおけるコロナ禍がもたらした社会的・経済的影響への対応に向けて、ハワイ・コミュニティ財団のハワイ・レジリエンス基金にかつてない300万ドルを寄付しました。寄付は100万ドルずつ、(1) 健康と安全、(2) 食料と栄養、(3) 経済回復の取り組みの3つの分野にあてられます。

11月には、ハワイ大学と同大学の運動競技プログラムの支援に向けて、500万ドル以上のスポンサーシップ、奨学金、スチュワードシップの特別投資を発表しました。コロナ禍による経済的な打撃によってハワイ大学のスポーツや学生アスリートは深刻な影響を受けているため、バンク・オブ・ハワイは今後10年のスポンサーシップ資金として500万ドルを提供しました。契約の一環として、ハワイ大学はアリーナ

**「去年のトレンドは
今まで進んでいた変化を一段進めることだったと
考えています。21世紀型の時代に即した
バンキングエクスペリエンスを提供するという
探求をこれからも続けていくことに
胸が高鳴る思いです。」**

を「スタン・シェリフ・センターSimpliFiアリーナ」に名称変更する権利をバンク・オブ・ハワイに付与しました。ハワイ大学の前スポーツディレクターで皆に愛されたブルース・“スタン”・シェリフの遺した功績を受け継ぎつつ、ハワイ大学のスポーツに対する当行の支援に感謝を示した命名です。BOH財団はスタン・シェリフの名前を冠した追加的な10万ドルの寄贈奨学金基金を立ち上げ、2021-2022学年度から学生アスリートへの奨学金支援を開始します。

お客様に対してもコロナ禍の経済的影響を軽減するために追加的な措置を講じました。ハワイと西太平洋のお客様に対する住宅ローン、住宅担保ローン、住宅担保ラインについての最長6カ月間のローン返済猶予などです。また、2020年6月まではBOHのATMの手数料を免除し、米国および米国内のBOH以外のATMにおけるデビットカード取引の手数料を免除しました。

BOHの行員300名以上からなるチームが編成され、中小企業庁の給与保護プログラムの申請4,500件以上、金額合計5億6,000万ドル以上を処理し、地元企業をサポートしました。

さらに、オンラインの少額緊急ローンプログラムを提供し、1,500人近くのお客様に対してローン申請を手助けし、お客様の基本的な生活費用の捻出をサポートしました。

健康管理の取り組みも支えました。ハワイ・パシフィック・ヘルスとクイーンズ・ヘルス・システムには1,000枚以上のN95マスクと200枚のフェイスシールドを寄付し、市場全域で個人防護具を病院や医療施設に寄付し続けました。また、BOH財団からはハワイ・ヘルスケア協会に対して10万ドルを寄付しました。

当行の取り組みに対して、ファンドレイジング・プロフェッショナル協会のアロハ支部は、11月の全国慈善デーにおいて、バンク・オブ・ハワイを2020年の優秀企業として選出しました。この賞は当行の企業としての慈善支援、現物支援、コミュニティに対するリーダーシップを評価したものです。

変化するお客様のニーズへの対応

困難な状況では顧客体験の重要性が一段と高まります。当行では進化するテクノロジーと、お客様の基盤となる個人的なつながりのバランスをうまく取れるように尽力しています。適切なバランスというものはお客様によって異なるものです。コロナ禍によってお客様の行動様式も変化しました。当行の成功は、デジタル、オンライン、対面など様々なチャネルで個人的につながるという強みにかかっているのです。

変化するお客様の好みをより良く理解するために、顧客データや顧客インサイトを収集するための新たな枠組みを導入しました。CX（顧客体験）というこの新しいプロセスは、間断なく効果的にお客様とのやり取りに注力できるよう、改良点の洗い出しや設計に役立っています。

デジタルソリューションに対する当行の継続的な投資は数年前から始まっています。これにより、コロナ禍でデジタル取引を増やしているお客様に円滑に対応できたのです。

例えば今年、当行とのつながりを感じていただくもう1つの手段として、モバイルアプリのライブチャット機能に担当者による対応を追加しました。モバイルアプリには、Apple PayやPayPalといった非接触取引の

モバイルウォレットと銀行口座をつなげる機能も搭載されています。

Mark Rossiに贈るアロハとマハロ （お別れと感謝の言葉）

長年にわたり素晴らしい助言や個別のサポートをしていただいたMark Rossi副会長には、心から感謝の言葉を贈りたいと思います。Markは、最高管理責任者、法務顧問、事務部長として2007年にバンク・オブ・ハワイに入行しました。そして、当行がコロナ禍を乗り越え、後継者を探す猶予を持てるよう2020年末まで退任を延期することに快く応じてくれました。エグゼクティブコミティのメンバーとして、Markは法務、コーポレート・コミュニケーション、ガバメント・リレーション、コーポレート・セキュリティ、コーポレート・インシュアランスサービスのあらゆる面においてチームを率いてきました。

11月に当行は新しい最高法務顧問としてPatrick McGuirkを迎えました。Patrickは、エグゼクティブコミティのメンバーとして、コーポレート・セキュリティ、コーポレート・セクレタリー、コーポレート・リスク・インシュアランス、法務部門を統括します。Patrickは金融サービスの法務分野で25年以上の経験があり、金融業界が直面する法的問題に対する幅広い知見などの専門性を有しています。当行の今後の成長や変化の中で、Patrickの専門性が活かされていくことでしょう。

おわりに

当行取締役にはそのサポートに感謝し、行員にも感謝を述べたいと思います。この1年の困難の中でも業績を上げ、困難に対応してきた働きぶりを非常に誇りに思っています。当行は皆で1つになって働き、お互いを支え、お客様とコミュニティに支えてきました。当行、同僚、コミュニティ、株主が力を合わせていくことで、今までになく堅固で順応性の高い銀行になっていけると確信を強めています。

心より感謝の意を込めて。



Peter S. Ho
会長、社長兼CEO

2020年の財務実績の概要

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーションおよびその子会社（千ドル、ただし1株当たり金額を除く）

12月31日年度末現在	2020年	2019年
収益のハイライトと業績比率		
当期純利益	\$ 153,804	\$ 225,913
基本的1株当たり利益	3.87	5.59
希薄化後1株当たり利益	3.86	5.56
1株当たり配当	2.68	2.59
純利益/平均総資産 (ROA)	0.79 %	1.29 %
純利益/平均株主資本 (ROE)	11.38 %	17.65 %
純預貸利ざや ¹	2.73 %	3.03 %
効率性比率 ²	54.91 %	55.68 %
普通株式1株当たりの市場価格:		
終値	\$ 76.62	\$ 95.16
高値	95.53	95.68
安値	46.70	66.54
12月31日現在		
財政状態のハイライトと業績比率		
貸出金とリース債権	\$ 11,940,020	\$ 10,990,892
資産合計	20,603,651	18,095,496
合計預り金	18,211,621	15,784,482
その他負債	60,481	85,565
株主資本合計	1,374,507	1,286,832
普通株1株当たり純資産	\$ 34.26	\$ 32.14
未払い貸出金とリース債権の引当金	1.81 %	1.00 %
専従換算社員数	2,022	2,124
支店とオフィス	65	68
12月31日を期末とする四半期		
収益のハイライトと業績比率		
当期純利益	\$ 42,314	\$ 58,143
基本的1株当たり利益	1.06	1.46
希薄化後1株当たり利益	1.06	1.45
純利益/平均総資産 (ROA)	0.83 %	1.29 %
純利益/平均株主資本 (ROE)	12.26 %	17.84 %
純預貸利ざや ¹	2.48 %	2.95 %
効率性比率 ²	59.88 %	54.26 %

1 純預貸利ざやとは、課税対象相当額ベースの純受取利息として、平均収益資産の割合として定義されます。

2 効率性比率は、利息以外の費用を総収入（純受取利息と非利息収入合計）で割ったものとして定義されます。

昨年振り返り

苦難からの立ち上がり

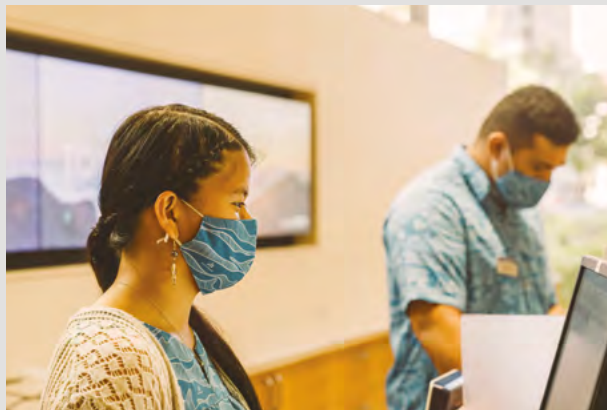
刻々と変化する課題に対応する

2020年はかつてない困難や変化の年でした。

この中で、当行はスキル、専門性、リソースを活かしてお互いを気遣う一方で、コミュニティがより良い未来を構築できるよう尽力しました。感染拡大中、またその他のときでも変わらないことが1つあります。—バンク・オブ・ハワイのお客様、同僚、株主、コミュニティに対する忠実なサポートです。

回復や成功に向けた新しい道のりが明らかになる中で、2020年に次の点について評価されたことは光栄です。

- ムーディーズ・インベスターズ・サービス：
 - 「長期預金格付」でAa2評価を確認。全米トップ6位、ハワイ最高位の金融機関となる。
 - 「ベースライン信用リスク評価」においてBOHをA1に評価、全米で上位2位の金融機関となる。
- フォーブス誌：
 - 12年連続で「アメリカのベスト・バンク」にランクイン。この選出の開始以来12年にわたり受賞したローカルバンクはBOHのみ。
- ホノルル・スター・アドバイザー紙、ハワイ・トリビューン・ヘラルド紙、ホノルル誌、ハワイ・ホーム+リモデリング誌の読者により、ハワイの「ベスト・バンク」に選出。



新型コロナウイルス感染症への対応

当行の事業の中心は人です。よって当行では、行員、お客様、ビジネスパートナー、コミュニティの健康と安全を最も優先しています。新型コロナウイルス感染症流行の初期段階から、科学的なガイドラインに基づいた厳しい措置を取り、刻々と変化する政府の規制にも従ってきました。コロナ禍前にラップトップやタブレットなどのモバイル機器に移行していたことで、オフィス勤務の行員をリモートワークに迅速に切り替えることができ、お客様にできる限り最高水準のサービスを間断なく提供することができました。

当行が講じた措置の詳細については、この年次報告書全体で説明しています。コロナ禍で当行が導入した様々な措置の中から一部をご紹介します。

支店と施設における予防措置

ハワイ州では3月に自宅待機命令が発令され、バンク・オブ・ハワイは一時的に一部支店を閉鎖しました。不可欠な金融サービスを提供する事業として、行員とお客様の健康を維持するために新たな措置をとりました。全行員には毎日職場に入る前に健康確認質問表の提出と体温測定を義務付け、ソーシャルディスタンスを周知、徹底し、お客様には6フィート間隔を開けて列に並ぶようにしていただきました。流行の初期段階から行員はマスクを着用してきましたが、7月6日以降はBOHの支店や施設に入るお客様にもマスクの着用を義務化しました。

さらに、最も脆弱な立場にある人へのリスクを軽減するために、支店開店後最初の1時間はkūpunaアワーとし、65歳以上のお客様やリスクの高いお客様とその介護者専用の時間としました。

全ての施設で換気のパフォーマンスを向上させ、空気ろ過サービスも増やしました。支店においては、受付カウンターを透明アクリル板で仕切り、消毒液を備え、ソーシャルディスタンスを呼び掛けるサインや床の目印を取り入れました。ウイルスの拡散を抑制するために、清掃員による日々の定期的な消毒に加えて、現場の全行員によって業務開始時と終了時には手順に従って清掃を実施しました。

お客様対応の増加

感染拡大中には、電話とオンラインの問い合わせが記録的な数になりました。需要の増加を受けて、一時的に閉鎖した支店の行員を再教育したほか、ソーシャルメディアチームを増員し新たな職務に対応しました。

中小企業庁の給与保護プログラム (PPP)

地元企業オーナー支援に向けた当行の対応の中で重要なものとして、PPPローンの迅速な処理がありました。当行では行内全主要部門の400人以上の行員からなる専任のPPPチームを立ち上げました。プログラムのピーク時には申請処理のためにチームは夜昼なしで働き、その後はローン猶予のために業務を継続しました。当行では6月末までに4,500件以上、合計5億6,000万ドル以上のPPPを処理しました。

緊急援助と経済支援

コロナ禍の経済的影響を軽減するために、影響を受けた個人と法人のお客様の支援に向けて様々なプログラムを導入しました。ATMの追加料金や譲渡性預金の期日前解約の違約金の免除、「新型コロナウイルス支援・救済・経済安全保障法 (CARES法)」の要件を大幅に上回るローン返済の猶予などが含まれます。市場で一般的に提供されているのは90日の延長なのに対し、当行は6カ月の返済猶予やローン延長を実施しました。また、テクノロジーを活用して必要文書を対面ではなくオンラインで入力できるようにもしました。さらに、大規模な企業顧客から少額分割貸付の消費者に至るまで、積極的にお客様に連絡を取り、様々な規模のローンについてサポートが受けられることをお知らせしました。

緊急資金を必要とする人のためにはオンラインの少額ローンプログラムも立ち上げました。これは3,000ドルを上限とし、当初4カ月間は返済不要、低い固定金利が適用される返済期間40カ月のローンです。4月22日から6月30日のプログラム期間中、1,500人のお客様にこの緊急ローンを確認して、お客様を支援しました。

2021年に入っても当行は引き続き貸付条件の修正にお客様と取り組んでおり、住宅ローンや住宅担保ローンを含めた様々な規模のローンについてお客様が返済能力を再度確立できるよう手助けしています。

継続的かつ長期的な取り組み

お客様、そしてより幅広いコミュニティの好みや期待の変化に応えるため、当行は常に商品やサービスの改善を模索しています。このような改善の多くは導入までに数年にわたる準備が必要です。コロナ禍前に計画していたもので2020年に導入されたプロジェクトの一例をご紹介します。

顧客体験の向上

常に変化するお客様の期待を理解しそれに応えていくために、お客様からのフィードバックやご意見をタイムリーに集められる新たな枠組みを導入しました。対面でのやり取り、オンラインやモバイルの体験、市場調査などあらゆるチャネルが対象となっています。

お客様からの直接的なフィードバックに対する投資は当行の成功に不可欠なものです。2020年には2万件以上の調査が収集され、事業判断に活用され、当行からお客様への約束を果たしていくことにもつながりました。

CX(顧客体験)において、このような見識は新たな顧客の体験の創出や向上に活用されました。CXは継続的で体系的なアプローチであり、お客様が躓きを感じる点を減らし、スムーズかつ効果的で前向きなやり取りを作り出すことにつながります。例えば、調査結果やその他のデータを見直した結果、支店ロビーにおけるお客様対応の方法を改善し、また、スムーズで一貫性のある口座開設プロセスに向けてトレーニングも強化しました。

「ブランチ・オブ・トゥモロー」ネットワークへの投資

現在、当行はハワイと西太平洋で49の支店を開設しています。2020年には一時的に閉鎖された支店もあり行員の多くも在宅勤務となりましたが、職場の変革は続いています。コロナ禍に先立って、3月初旬にオアフ島のイウィレイで新たな支店開設を祝いました。4,700平方フィートのスペースは、9支店目となる「ブランチ・オブ・トゥモロー」です。健康を守る措置に加えて、エネルギー効率の向上、テクノロジーのアップグレード(無料Wi-FiやCardless Cashで簡単に預金できるATMなど)、その他のサービス改善といった新しい機能が盛り込まれています。

最新の「ブランチ・オブ・トゥモロー」4支店の建設も進んでいます。ワイアラエ・カハラ支店、ミリラニ支店、セーフウェイ・コナ支店は改装され、2021年前半にはお客様をお迎えします。ハワイ島の新しいヒロ支店は今年後半に建設に着手します。さらに、グアム島タムニンの西太平洋地域の本店と支店の計画も進んでいます。

お客様のためのデジタルソリューション

デジタル対応向上に対する多大な投資はコロナ禍でその重要性が示されました。これは将来に向けてお客様の利便性向上にもつながるものです。バンク・オブ・ハワイは他のローカルバンクよりも多くのデジタルバンキングツールを提供し続けています。

2020年、SimpliFi by Bank of Hawaiiにはデジタルでの住宅担保ローン申請機能が追加され、補足文書のアップロード、申請状況の確認、ローン担当者との連絡などが



非接触取引に向けてデビットカードとクレジットカードを当行のモバイルアプリにリンクさせました。

できるようになりました。SimpliFi by Bank of Hawaiiは2018年に最初に導入され、オンラインやモバイルのプラットフォームから安全かつ簡単にローンや口座開設の申請ができるものです。この1年間で預金口座が300%増加しました。

継続中のデジタル変革の一環として、7月にはグアム、サイパン、パラオのお客様向けにオンラインでの口座開設を開始しました。西太平洋市場のお客様は現在、ウェブサイト経由で当座預金口座、普通預金口座、定期預金口座に加えて、最上級のBankohana口座も開設できるようになっています。

今年はモバイルアプリのライブチャット機能に担当者による対応を追加しました。質問やサービス依頼に対応できる担当者とお客様をつなげ、必要に応じて会話をビデオに切り替えて本人確認などの追加的なセキュリティ手段を講じることもできます。

デビットカード

モバイルアプリの最新ソリューションでは、携帯電話のApple PayやPayPalといった非接触取引のモバイルウォレットに自分のデビットカードをつなげることができます。デビットカードの紛失や盗難の際、または交換が必要な際、新しいカードが郵送で送られてくるのを待たなくても支払を継続できるという追加的なメリットもあります。

また、2021年前半にはデビットカードを非接触カードに切り替えていきます。信頼性と安全性が高まるだけでなく、タップ支払による決済は支払端末に触れる必要がないため迅速で簡単です。



ワイアラエ・カハラ支店は新たに2021年春にオープンします。

特化型サービス

当行は柔軟性の高い特化型のツールやサービスを様々な面で提供するという点でもリーダー的な立場にあります。お客様の家族向けの資産管理や住宅ローンサービスであっても、お客様の事業向けのコマーシャル・バンキングの助言であっても、真の価値を引き出すために総合的な知識と適切なソリューションを提供し、お客様の長期的な目標達成をお手伝いしているのです。

住宅ローン、消費者融資、 ディーラー間接融資

コロナ禍を受けて居住空間が職場として、時には学校として使われるようになり、多くの人にとって住宅の重要性が今までになく高まっています。

BOHは8年連続でハワイ州最大の住宅ローン融資銀行となりました。2020年の住宅ローン設定額は史上最高となり、引き続き州最大の住宅担保ローン融資銀行にもなりました。地元での処理と引受という専門性に加えて、利便性や柔軟性の高いサービスを備えており、お客様のニーズに即した最適なローンの選択肢を提供することができます。

夢の住宅購入や建設を始め、改修費用やその他の支出を賄うための住宅の担保化においてお客様をサポートするという点で、SimpliFi by Bank of Hawaiiが今までにない利便性を提供しています。

また、ハワイを拠点にした銀行としては唯一、ハワイアン・ホームランド局向けローンを提供しており、このサービスを継続していることも誇りです。住宅ローンのチームは関連する様々な複雑さを熟知しており、ローン処理の合理化の方法を理解しています。

コロナ禍で影響を受けた他の業界と同じように自動車販売も落ち込んでおり、自動車ローン残高も低下しています。しかし、バンク・オブ・ハワイは依然として西太平洋最大でハワイ州では二番手の自動車ローン銀行となっています。自動車ローンとリースの合計ポートフォリオは年末時点で8億100万ドルになりました。コロナ禍に関連した困難にもかかわらず、当行は地元自動車販売ディーラーとの関係を引き続き強化してきました。

商用不動産ローンと低価格住宅

職を失ったり困窮したりする人が増える中で、低価格住宅や労働者用住宅を利用できるかどうかが新型コロナウイルス流行の全体的な影響に大きくかかわってきます。ホノルルは依然として全米でも最も住宅費の高い都市であり、ハワイ全体では低価格の賃貸住宅が不足しています。

バンク・オブ・ハワイは常に低価格住宅の不足に対する解決策模索に全力を尽くしており、民間開発業者や州住宅局と緊密に連携し、低所得世帯の住宅ニーズに応えようとしています。バンク・オブ・ハワイの貢献もあって、2020年中に建設が開始された、または完了した低価格住宅は450戸以上となり、さらに860戸以上の計画が進んでいます。

8年連続で ハワイ州最大の 住宅ローン融資銀行と なりました。

プロジェクトの1つが最近改装されたクイーンエマ・アパートです。使われなくなったオフィスビルを転用して再利用するもので、低価格住宅に転換されました。アパートはホノルルのダウントウンにあり、2020年に完成しました。バンク・オブ・ハワイはアヘ・グループ社によるプロジェクトの建設を支援しました。今年末までに71戸全てに入居者が入ります。



ハレ・カレレには200戸の低所得世帯向け賃貸住宅が入ります。
写真提供:コバヤシ・グループ

ハレ・カレレはホノルル都心部の新しい開発で、コバヤシ・グループがスポンサーとなり州からリースされるものです。建設は2020年10月に着手され、2022年の完成を目指しています。高層タワーの1階と2階部分は州司法局によって少年施設として利用される予定です。他のフロアには地域の所得中央値の30%から60%の所得を得ている低所得世帯向け賃貸住宅200戸が入ります。

バンク・オブ・ハワイは、ハレ・カレレの建設ローンの資金調達を統括し、プロジェクト運営支援に向けて恒久ローンを提供しました。また、当行では低所得者住宅税額控除を通して投資家として株式投資も確約しています。

プライベート・バンク

コロナ禍を受け、富裕層のお客様には複雑なニーズが生まれることが見込まれ、当行プライベート・バンクのサービスには高い需要がありました。バンク・オブ・ハワイでは最先端のテクノロジーに投資したため、金融アドバイザーは対面サービスからデジタルチャネルによる一対一の優先サービスに迅速に軸足を移すことができました。銀行全体の同僚とのチームによるアプローチを一段と高めるために、同じようなデジタルの強化やコラボレーション型ソフトウェアも活用し、お客様の人生のあらゆる局面を通して迅速かつ総合的な戦略やサービスを引き続き提供できるようにしました。投資や保険の助言、個別の融資、財務・財産・税務プランニング、慈善寄付、信託サービスなど、当行ではお客様のニーズに注力した信頼のおけるアドバイザーを備えています。

2020年前半には、インターナショナル・クライアント・バンキング部の一部として、東京丸の内に駐在事務所を開設しました。事務所の開設を通してSMBC信託銀行との重要な事業協力を深めてまいります。また、バンク・オブ・ハワイを代表して日本の他の銀行や公認会計士、税理士、その他の金融の専門家との関係強化も図ります。

信託・財産・財務プランニング

プライベート・バンクのチームメンバーはお客様とその目標を深く理解しています。市場や人生における変化を乗り切るためにそれぞれに特化した戦略を策定するためです。お客様の多くがベビーブーム世代で退職時期に差しかかっていることから、将来に向けた資産管理や次世代への効果的な引継ぎを支援するという点で、投資や資産計画のサービスが大部分を占めています。

投資および保険サービス

バンク・オブ・ハワイは、引き続きハワイと太平洋地域での信託および投資業務に関し優良なサービスを提供しています。当行はハワイ州最大の地方債のマネージャーであり、3つの免税公債の投資アドバイザーを務めています。認定ファイナンシャルプランナーおよび認定ファイナンシャルアナリストからなる信頼のおけるチームが、幅広いアドバイザーと仲介サービスを通して約70億ドルの資産を管理しています。

バランスのとれた財務プランニングサービス提供のための総合的なアプローチでは、お客様の資産の拡大だけでなく資産の保護も重要になります。2020年、Bankoh Investment Services, Inc.は、チームに新たに選任の保険スペシャリストを迎えました。このスペシャリストは、総合的かつ競争力の高い生命保険、障害保険、ハイブリッド長期介護保険といった一連のソリューションを紹介することができます。

コマーシャル・バンキングと ビジネス・バンキング

バンク・オブ・ハワイでは、あらゆる規模の事業が成長と成功を手に行けるように、革新的なソリューションや新しいテクノロジーだけではなく、お客様とともに走りながら助言が可能な優秀なバンカーを備えています。

当行のコマーシャル・バンカーやコーポレート・バンカーは、自身の専門性を活かして、競争力が強く、多様なソリューションを様々な業界のお客様のために作り出しています。バンカーは、行内の他の金融サービスの専門家と密に連携し、不動産ローンや建設ローン、流動資産管理、設備用資金調達などの幅広いニーズに対してお客様にあわせた戦略や提案を提供しています。バンク・オブ・ハワイは、商用不動産およびキャプティブ保険を含む複数の分野において、最適なファイナンシャル・パートナーとしての高い評判を築いてきました。

当行は2020年も引き続きハワイ州における最大の商業用融資機関となりました。当行のチームは、経営者、ディベロッパー、マルチファミリー投資家、小売業者、製造業、オフィス、複合施設に対して、それぞれのニーズにあった金融ソリューションを提供しています。

当行のバンカーはハワイ経済における小規模事業者や家族経営事業者の重要性を理解しています。さらには、小規模事業者や起業家が直面する特有の課題についても熟知しています。PPPローンやその他の金融支援を事業者のお客様が利用できるようなだけでなく、2020年には独自に開発した無料の健康診断アプリも提供しました。これは、従業員が病気のまま出勤して働くのを防ぐための予備検査用ツールとして利用するものです。自宅待機命令が解除された後、事業再開の際に地元企業を支援するためにこのアプリを利用できるようにしました。

ビジネスのためのデジタルバンキング ソリューション

2020年、当行はオンラインプラットフォームの開発と改善に取り組み、支払い、売掛処理、確実なセキュリティや重要なレポーティングといった機能を法人のお客様に提供する処理ハードウェアをアップグレードしました。それと並行して、お客様が自社、ベンダー、顧客ベースに対して最善のサービスを提供できるようにサポートしています。

売掛処理の基本ソリューションであるロックスボックスサービスには大きくアップグレードされ新たなソフトウェアとハードウェアが導入され、最高の支払処理、売掛の完全画像化、レポート発行機能の拡大などが利用できるようになりました。

当行のビジネス・バンキングのオンラインプラットフォームであるバンコ・ビジネス・コネクションの大幅なアップグレードも完了しました。このような幅広い取り組みによって、国内外向けの送金、情報レポーティング、不可欠な管理ユーティリティが大きく向上しました。アップグレードを経て、ソフトウェアのデジタル技術によって法人のお客様のアクセスが容易になるという二次的な効果も生まれました。



コミュニティの

ウェルビーイング、 そして回復を支援する

新型コロナウイルスは、同僚や家族、お客様やビジネスパートナー、より広範なコミュニティなどあらゆるものに影響を及ぼしています。公衆衛生に困難をもたらしただけではなく、深刻な経済的困難ももたらしハワイ州全域にわたって住民や世帯に影響を与えました。

慈善活動、ハワイの小規模事業者への支援、調査の発注、革新的な企業スポンサーシップ、ソーシャルディスタンスを取ったボランティア活動などを通して、バンク・オブ・ハワイとバンク・オブ・ハワイ財団は危機に直面したコミュニティに対するkōkuaを強化しました。バンク・オブ・ハワイ、行員、バンク・オブ・ハワイ財団は2020年にコミュニティと慈善活動に520万ドル以上を寄付しました。

上の写真：バンク・オブ・ハワイの行員は2020年に様々なイベントを通してコミュニティを支援しました。必要とする人に食料を届けるハワイ・フードバンクを手助けしたエドナ・コウもその1人です。





ハワイにおける新型コロナウイルスの影響に対処する

バンク・オブ・ハワイ財団は、ハワイにおいてコロナ禍がもたらした大きな社会的・経済的影響に対処するために、340万ドル近くを寄付しました。そのうち300万ドルはハワイ・コミュニティ財団のハワイ・レジリエンス基金に寄付されました。資金の大半は、コミュニティの健康と安全や食料と栄養に関連したニーズに応え、経済の活性化と回復を促すために使われます。



写真提供: インスティテュート・フォー・ヒューマン・サービス

上の写真: ビル・シロマをはじめとするバンク・オブ・ハワイの行員はハワイ・フードバンクの食料配布にボランティアとして参加しました。バンク・オブ・ハワイは全州のフードバンクに100万ドルを寄付しました。

左: バンク・オブ・ハワイは、インスティテュート・フォー・ヒューマン・サービス (社会福祉協会、IHS) 支援のために、一般からの消毒機器と寄付を集める1日の取り組みに協賛しました。バンク・オブ・ハワイ財団は、IHSの屋内待機サービスを支援するためにIHSに2万ドルを寄付しました。

追加的なコロナ対策支援

バンク・オブ・ハワイ財団は、最前線で多大な貢献をされている方を支援でき誇りに思います。バンク・オブ・ハワイ財団は最前線で働く方々がコミュニティを支えるために必要とする個人用防護具や資金を入手できるよう、次の寄付を実施しました。

- ハワイ・パシフィック・ヘルス、クイーンズ・ヘルス・システム、クアキニ医療センター、その他ハワイと西太平洋の医療施設には、1,200枚以上のフェイスシールドとN95マスクなどの個人用防護具を寄付。
- ハワイ・ヘルスケア協会には、医療従事者と看護対象の患者を守るために10万ドルを寄付。
- グアムとサイパンのフードバンクや食料配給サービスには、家族向け緊急食料ボックスや最前線の看護スタッフへの持ち帰り食を提供するために10万ドルを寄付。
- インスティテュート・フォー・ヒューマン・サービスには、屋内待機サービスをサポートするために2万ドルを寄付。さらに、BOHでは「希望のバッグ」と呼ばれる1日間の取り組みに協賛し、5,000ドル以上の現金による寄付を集めたほか、何百点にもおよぶ必需品を集めました。
- ホノルルのYMCAには、エッセンシャルワーカーの子供たち向けのデイケアプログラムを維持できるように1万ドルを寄付。
- ハワイ・フードバンクには、バンク・オブ・ハワイの行員からオンラインで開催された2020年ハワイ・バンカーズ協会フードドライブ向けに1万4,000ドルを寄付。

ハワイにおける新型コロナウイルス：事実とインサイト、第1巻と第2巻

家族や個人にコロナ禍が及ぼしている現在の影響をより深く理解するために、バンク・オブ・ハワイ財団はアンソロジー・リサーチに対して住民のベースライン調査とフォローアップ調査を実施するよう依頼しました。調査結果は厳しいもので、経済的困窮の深刻化やハワイ住民が直面する不安が浮き彫りになりました。

- ハワイの世帯は経済的に深刻な影響を受けています。2020年12月現在、
 - 56%の世帯が家賃、住宅ローン、公共料金の支払いに苦労しています。この割合は5月には48%でした。
 - 63%の世帯が仕事を失うか、勤務時間または給与が減らされています。この割合は5月には55%でした。
 - 53%の世帯が流行拡大以降に世帯収入が低下しています。この割合は5月には45%でした。
- 住民の間では新型コロナウイルスに対して非常に大きな不安があります。
 - 82%の人が新型コロナウイルスは自分自身や家族に現実的な危険を及ぼすと感じています。この割合は5月には71%でした。
 - 個人的な知り合いが新型コロナウイルス検査で陽性になったことがあるとした人は5月の18%から2倍以上の43%となりました。

第2巻はこちらからご覧ください：
www.boh.com/facts-figures。



Kristin Yamaを始めとするバンク・オブ・ハワイのブルー・クルー・ボランティアは、「ポップアップ・マケケ!」に参加した小規模事業者が注文を処理できるよう商品の企画や包装を手伝いました。

非営利団体との革新的なパートナーシップ

善意の花を咲かせる バンク・オブ・ハワイ財団はグッドウィル・ハワイの年次募金活動を引き続き支援しました。この活動はオンラインイベントになっても続いています。視聴者はグッドウィル・ハワイの商品をオンラインで購入しました。また、地元のファッションデザイナーにスポットライトがあたり、職業スキルトレーニングや雇用機会に関して住民が利用できるリソース情報なども多数の人に向けて放映されました。

ハワイ・ブック&ミュージック・フェスティバルはオンラインイベントに模様替えし、ハワイ大学と協力して開催されました。イベントは10月まで延期されましたが、見識豊かで時代に即したスピーカーが登壇しました。この中では、革新的で持続可能なハワイの未来に関連した様々な側面に注目したパネルディスカッションが45回開催されました。バンク・オブ・ハワイは2006年以来スポンサーを務めています。

ハワイの小規模ビジネスを支える

ポップアップ・マケケ!ハワイ先住民向上協議会が開発したオンラインのマーケットプレイス「ポップアップ・マケケ!」に参加する400社以上のハワイの小規模事業者を支援するために、ホリデーシーズン中、バンク・オブ・ハワイのブルー・クルー・ボランティアに参加していただきました。Ia ulimaの精神で多くの人が協力し、バンコ・ブルー・クルーは商品の企画や包装を手伝いました。地元産の商品2万点以上の注文を受け、商品は世界中に届けられました。

ハワイ・コミュニティ財団の ハワイ・レジリエンス基金

当行による寄付300万ドルからの特別割当ての一例をご紹介します。

- 食料:** 全州のフードバンクに100万ドル。資金はホノルル市とホノルル郡からの100万ドルのマッチングを受けました。非常に多くの食料供給ができ、30万人以上の個人や家族が食料を受け取りました。また、食料配達業者や農家、支援スタッフといったサービス提供者が仕事に従事でき、コミュニティのニーズに対応することにもつながりました。
- 健康:** 100万ドルが健康と安全の取り組みに使われました。この中にはコクア・カリヒ・パレー総合家族サービスに対する20万ドル（カリヒ地区住民への健康サービス提供のため）、クイーンズ・メディカル・センターに対する20万ドル（感染症プログラム拡大のため）などが含まれています。
- 景気回復:** ハワイ・コミュニティ財団の社会インパクト基金創設に100万ドル。この基金は、個人、企業、非営利団体が資本や技術的なサポートを受けられるようにするものです。

500万ドル以上

を学生アスリートと
ハワイ大学運動競技部の支援へ



ハワイ大学運動競技部固有の経済的困難に対処するために、バンク・オブ・ハワイは予算手当として今後10年間で500万ドルのスポンサーシップを提供します。契約の一環として、ハワイ大学はアリーナを「スタン・シェリフ・センターSimpliFiアリーナ」に名称変更する権利をバンク・オブ・ハワイに付与しました。ハワイ大学の前スポーツディレクターで皆に愛されたブルース・“スタン”・シェリフの遺した功績を受け継ぎつつ、ハワイ大学のスポーツに対する当行の支援に感謝を示した命名です。

バンク・オブ・ハワイ財団はスタン・シェリフの名前を冠した追加的な10万ドルの寄贈奨学金基金を立ち上げ、2021-2022学年度から学生アスリートへの奨学金支援を開始します。



当行の行員



当行はお客様と行員の安全を最優先にしています。全支店で透明アクリル板の仕切りなどの予防措置が取り入れられています(本店の写真をご覧ください)。

かつてない苦難の年を

乗り切れるように
行員をサポート

バンク・オブ・ハワイの行員と文化は特別です。当行はひとつの‘ohanaとして素晴らしいサービスを提供することに全力を尽くしています。当行のビジネスの根幹には、懸命に働く献身的な行員の存在があります。2020年は、行員の健康と福利を最優先にすることが非常に重視される年でした。行員の物理的、経済的、心理的な健やかさを支援することで、職場でも家庭でも行員が最高の力を発揮できるようになると考えています。

コロナ禍にある行員へのサポート

コロナ禍がもたらした類を見ない困難を受けて、当行は行員へのコミュニケーションを改善し、行員サポートの新しい方策を導入する必要に迫られました。支店や施設で消毒手順や個人用防護具などの健康を守る習慣を導入したほか、大半の行員がリモートで働けるようにツールやリソースも提供しました。オアフ島で政府による自宅待機命令が発令される前に、バンク・オブ・ハワイではラップトップやタブレットを利用した独自のリモートワーク・ポリシーを施行しました。行員の60%が在宅勤務に切り替わり、その中でお客様に高い水準のサービスを引き続き提供しました。また、人事サービス部門ではCOVIDコーチを任命しました。新型コロナ関連の方針に関する質問や、個別状況における最善の行動についての判断などについて、行員が自分の部門以外にも頼れる先を確保したのです。

コロナ禍による在宅勤務の増加を受けてチームとつながる方法も変化しました。当行は刻々と変化する要求や感染状況などについて複数のチャンネルを使ってタイムリーなコミュニケーションを提供しました。8月には人事サービスにより行内ウェブサイトがmyPSという名称で刷新されました。このウェブサイトからは、トレーニング動画やトレーニングセッションへの新しいアクセス方法など、行員サービスや福利などにアクセスできます。



左端：プライベート・バンクでインターンをしたCaitlyn Arcelはクレアモント・マッケナ大学の学生です。BOHのインターンシップ・プログラム修了証書を2020年7月31日のドライブスルー卒業式で誇り高く見せています。

左：ダウンタウンのホノルル・タワーの外で、Dan Mestasが受け取り時間にバンクー・ミールズ・トゥ・ゴーのパッケージを行員に渡しています。

エリート・ケータリングの
Rabuka Albertがバンコ・
ミールズ・トゥ・ゴーの毎週の
食事を梱包しています。



コロナ禍を受けて当行では行員心理調査を実施しました。在宅勤務に関する心境やフィードバックは、改善分野を特定し、積極的に懸念に対処する上で特に有効でした。調査では行員は仕事の満足度、チームの活力、キャリア開発などの質問に対して匿名で回答できます。個人の回答を閲覧するための個別ダッシュボードへのアクセスや、調査サイクル以外のフィードバック提出も可能です。

バンコ・ミールズ・トゥ・ゴー

5月初旬にバンク・オブ・ハワイは週に1度、行員に対する家族向けの食事提供を始めました。オアフ島にあるカフェ・ブルーの2カ所のキッチン施設で準備された食事は4人分、事前に梱包されています。ネイバーアイランドと西太平洋の食事は地元レストランで準備されました。持ち帰り食を必要としない行員には「積極的にシェアする」ことを奨励されました。食料に困っている家族、近隣住民、kūpunaや友人に自分の持ち帰り食を寄付するということです。行員が必要としなかった食事はアロハ・ハーベストに寄付されました。年末までに20万食が配布され、4,906ポンドの食料がアロハ・ハーベストに寄付されました。12月には、このプログラムを2021年6月まで継続することが発表されました。

トレーニングの効果的な活用

行員の柔軟性を高め、職場における安全を確保するためには能力開発やスキルトレーニングが依然として不可欠です。一時的に閉鎖した支店の行員は、オンライントレーニングを活用し、PPP申請処理やお客様からの電話対応など通常よりも多くの手が必要となった分野を新しい職責として担当しました。

また、新たな顧客体験 (CX) の取り組みに向けた全社的なデジタル学習カリキュラムも導入しました。行内外のお客様に対して優れた体験をお届けするために、行員に実践的なスキルを身につけていただくことを目的としています。この学習は自分のペースで進めることができ、グループディスカッション、アクティビティといった様々

な手法を活用して全行員に協力的かつ献身的な経験を作り出そうとしています。次の段階のトレーニングカリキュラムに向けて、カスタマイズされたCXトレーニングのカリキュラムを構築しようとしています。

ダイバーシティ、そしてインクルーシブな企業文化への注力を継続

バンク・オブ・ハワイは常にチームメンバーのあらゆる経験を尊重して歓迎するという職場文化を推進してきました。LGBTQ+のコミュニティに対する長年にわたるサポートを継続するだけでなく、2020年には行員リソースグループにおい

て、女性と軍関係者の固有のニーズ、見解、ポテンシャルに対して深く注力することにしました。コロナ禍によって年内に計画していた活動は制約を受けましたが、仕事における成功やコミュニティサービスについて優秀であった地元の女性を称えるYMCA オアフの年次表彰において、代表取締役副社長のJill Higaが表彰されました。さらに、11月の退役軍人の日には、U.S. VETS (ホームレスになった退役軍人を支援する団体) のオアフ島バーバースポイント拠点にいる退役軍人に軍関係者リソースグループから特別ランチが届けられました。

行員の経済基盤強化に向けた福利

バンク・オブ・ハワイに勤務すると、競争力の高い福利やサービスの一環として幅広い銀行サービスの特典も受けることができます。2020年1月に3つの金融関係の福利が新たに取り入れられました。最新情報をご紹介します。

- 学生ローン支援プログラム：行員に学生ローン返済のために毎月100ドルを支給（最高1万ドルまで）。
- バンク・オブ・ハワイGROW口座によるEASE：予定外の支出に備え、行員の預金を当行が支援。行員が500ドル預金すると50ドルのボーナスを1度支給し、1,000ドル預金すると追加で100ドルのボーナスを1度支給します。2020年末時点で528人の行員が申し込んでおり、8月のボーナスの支払いは6万ドル以上となりました。参加者の75%以上が7月までに1,000ドルを預金し、150ドルのボーナスを受け取っています。
- 住宅ローン割引：2020年に当行は、30年住宅ローンに加えて、15年住宅ローンも割引の対象としました。行員による居住用の住宅購入または住宅ローンの借り換えについて、新規の住宅ローン向けに行員金利を1%割引します。平均すると、BOH行員は住宅ローンについて毎月400ドル節約できています。新しいSimpliFiウェブサイトで、行員によるオンラインの割引申請手続きが簡単になりました。

オンラインでのサマーインターン・プログラム

コロナ禍によって地元のインターンシップ・プログラムの大半が一時的に停止される中で、バンク・オブ・ハワイは対面でのトレーニングからオンラインのプログラムに移行しました。プログラムは新たな人材の獲得と能力開発に向けて開発されたものです。意義ある仕事や能力開発の経験を引き続き提供できるようなプログラムに切り替え、プログラムには教育的クラス、スピーカー、コミュニティサービス、ネットワーキングの機会、メンタリングなどが含まれています。7月に8週間のプログラムが終わり、プログラムを修了した29人のインターンのためにドライブスルー形式で卒業式を行いました。

Daniel Peterson
(ピーターソン・
ブラザーズ・
コンストラクション・
インク社長兼CEO)、
その妻の
Ku'ulei Peterson
(同社契約・販売
バイスプレジデント)。
夫妻のファームハウス
にて。



ピーターソン・ブラザーズ・コンストラクション・インク

Daniel PetersonとKu'ulei Peterson

KU'ULEI PETERSON:

ピーターソン・ブラザーズ・コンストラクション・インクはハワイ州の認可一般請負業者で土木建設業に特化しています。解体、掘削、整地、現場ユーティリティ、コンクリート、アスファルト舗装、その他様々な事業を行っています。民間セクターや商業セクターに加えて、市や州のプロジェクトも手がけています。

DANIEL PETERSON: 当社は2013年に設立され、ハワイの主要な地域で業務展開しています。自身の会社を立ち上げる前は、同種の事業を扱っている兄の会社で働いていました。兄とは少し違ったビジョンを持っていたので、独立して自分の方向性を追求しようと思いました。

ピーターソン・ブラザーズにとって2020年は厳しい年でした。状況の変化が激しく、対応するのに苦慮しました。事業を完全に停止することはありませんでしたが、大規模な契約の中にはキャンセルされたり延期されたりしたものもありました。ただ、私たちとしては進み続けるしかなかったのです。

KU'ULEI: 去年の初旬、当社はエッセンシャルワーカーと見なされて業務を継続しましたが、感染拡大がその後どう進展していくのか誰にも分かりませんでした。契約は延期になり、お客様からの支払いにも遅延が生じました。仮に状況がさらに悪化しても使える手元資金を確保しておくために、先に資金の申請を考えました。

新型コロナウイルス感染症の流行によって問題が生じることが分かると、ただちにバンク・オブ・ハワイのKahea Williamsに連絡しました。確実に中小企業庁のPPPローンを受けられるようにしたかったので。彼からは、銀行として必要となる文書や申請サイトのオープン時期について教えていただきました。これにより、サイトがオープンして数時間以内には申請することができました。彼のおかげで申請プロセスはスムーズでした。資金は給与口座に預金し、その全額を給与支払いに使いました。

バンク・オブ・ハワイは現在、ローン返済免除に必要なものが手元に揃っているよう、私たちの近況を常に把握してくれています。

DANIEL: PPPローンは早い段階で使えるようになり、良いタイミングでした。今後何が起こるかわからなかったからです。予備的にローンを受けることができ助かりました。

KU'ULEI: ウェスト・オアフ・マーケットのバイスプレジデントのKaheaと、カボレイ支店長のVirgie Whiteが私たちのメインの担当者です。KaheaとVirgieは非常に協力的で、私たちの事業に必要なものが全て備わっているよう取り計らってくれました。

カボレイ支店には預金のために定期的に足を運びます。より安全に取引できるように支店は改良されています。支店では事業用の列に並べることに感謝しています。ソーシャルディスタンスを取っているため、個人用の列は時に支店の外まで伸びているためです。いつも支店のスタッフは親切に対応してくれます。常に歓迎してくれて、うまく仕事を終わらせるためのサポートをしてくれます。

DANIEL: 事業というものは多くの場合、関係性の上に成り立っています。銀行が私たちを知っていて信用していたため、事業立ち上げ時に取引銀行と良好な関係を築けてよかったと思います。与信枠が必要になったときにも、銀行は寄り添ってくれました。銀行の手助けがあって事業向けのHawaiian Milesクレジットカードを作ることができました。立ち上げ時には手元資金は潤沢ではありませんでしたので、クレジットカードが事業に多に役立ちました。今では与信枠も拡大し非常に役立っています。地元銀行との取引では小規模事業者の事業継続に自行がどれほど重要であるか彼らは理解してくれています。

Kaheaがウェスト・オアフの役職に最初に就任したとき、カボレイでの月次の事業ミーティングに来るために時間を割いてく

れました。私たちの会社や事業内容について理解しようとしてくれたのです。Ku'uleiもKaheaもカメハメハ・スクールに行っていたことが分かりました。その後、Kaheaはバンク・オブ・ハワイのハワイ大学に対する募金イベントにも私たちを誘ってくれました。この募金イベントでは、ファームハウス購入時の住宅ローンなど、個人ローンやその他の事業取引での協力者も紹介していただきました。

KU'ULEI: Danielはオアフ島西部で生まれ育ちました。当社従業員の90%も西部の出身です。私たちは、このコミュニティを支えていく大きな責任を感じています。

DANIEL: 年初には他界した母にちなんで名付けた非営利団体の届出を完了しました。アルマ・ジーン財団といいます。しばらくは若者スポーツの指導をしていましたが、オアフ島西部の子供たちのメンタリングや奨学金拠出のための財団も立ち上げたところですよ。

KU'ULEI: “アルマ (ALMA)” は、教育 (Academics)、リーダーシップ (Leadership)、メンターシップ (Mentorship)、運動競技 (Athletics) の頭文字を取ったものです。オアフ島西部は、大学教育やチーム活動の遠征、その他の支援などのサポートを恒常的に必要としていることがわかっています。このような活動向けの資金集めを手助けしたいのです。オアフ島西部だけではなく、可能であれば全州にわたり行いたいと考えています。

DANIEL: バンク・オブ・ハワイは未来に向けた私たちのビジョンをサポートしてくれています。事業の成功を支援してくれるだけでなく、自分たちの財団を通してコミュニティに還元するという私たちの取り組みも支援してくれています。もちろん、新型コロナウイルスの影響で計画の一部はしばらく保留にする必要がありますが、近い将来、ほぼ平時に戻ったときのために既に計画を進めており、学校にいる子供たちと再び共に動けるようになるでしょう。

CMU & アソシエイツ・インク

Charlie UmamotoとKerry Umamoto

KERRY UMAMOTO：

CMU & アソシエイツ・インク（営業名は、ヒロ・フィッシュ・カンパニー、コナ・フィッシュ・カンパニー、パシフィック・トレード・インターナショナル、トロピック・フィッシュ・ハワイ、トロピック・フィッシュ・カウアイ、トロピック・フィッシュ・マウイ）は、高品質の生鮮・冷凍海産物の世界的な輸入と販売を手がけています。当社はハワイ最大の鮮魚・冷凍海産物の販売業者です。

CMUに所属する会社では、世界中の25におよぶ様々な沿岸地域から調達した持続可能な漁業による天然や養殖の海産物をお客様に提供しています。調達や販売という役割を担うことで、責任ある持続可能な漁業や養殖の慣行を支援しています。

所属する会社の中には、私の父親が最初に立ち上げたヒロ・フィッシュ・カンパニーが含まれています。

CHARLIE UMAMOTO：ヒロは46,284人が暮らす町で、私たちのオフィスはここに 있습니다。私はこの島で生まれ育ち、初期のスタッフはこの地域の人でした。パートタイムから始め、今では会社の重要な役割を担うまでになっています。20年以上勤務している人もいます。

何年も前に、ヒロという場所で海産物だけで事業を維持していくのは難しいと考えようになりました。よって2000年にコナ・フィッシュ・カンパニーを立ち上げ、ビッグアイランド西部にあるスーパーやホテル、レストランにサービスを提供し始めました。現在ではおそらくこの島の生鮮海産物の90%を私たちが取り扱っています。

競争が厳しいのはホノルルでした。そのため、2008年にはトロピック・フィッシュ & ベジタブルを買収し、ホノルルの鮮魚卸売市場で確固たる地位を確立しました。2011年にはマウイ、2012年にはカウアイでも事業を開始しました。主要な島での販売施設を確保でき、ハワイ全州のお客様にサービスを提供できるようになりました。

バンコアの支援なしには何も成し遂げられなかったことでしょう。長年にわたって全州での販売を目指すという私たちの夢の実現を支えてくれました。

KERRY：現在、ハワイ全体に加え、米国本土とカナダにも海産物を販売しています。ロサンゼルスとニュージャージーにもオフィスを構えています。ハワイから生鮮海産物を販売するだけでなく、世界中から生鮮・冷凍海産物を輸入しています。

CHARLIE：2020年の困難の中で、従業員の努力に感謝し、評価したいと思います。従業員の尽力のおかげで会社を維持することができ、会社を維持できたおかげで他を守ることもできました。つまり、地元の雇用を守り、寄付を通じて必要とする人に食料を届けるということです。

今年の初めにはヒロ・フィッシュ・カンパニーとコナ・フィッシュ・カンパニーでフードドライブを主催しました。5万5,000ドル以上の資金を集め、ハワイ島のフードバンクであるザ・フード・バスケットを通してハワイ島で食料を必要とする方々に‘ohanaフードボックスを無料で提供しました。

KERRY：ヒロ・フィッシュ・カンパニーは1990年初めからある会社ですが、それでもこのコロナ禍は会社にとっての危機でした。しかし、事業を継続するためにどのように調整していくべきかを学ぶことができ、自分たちのコミュニティに商品を提供し続けることができたのです。

バンク・オブ・ハワイの商品やサービスはコロナ禍においては不可欠なものでした。BBC（バンコア・ビジネス・コネクション）のおかげで、電信送金、ACH、送金など多くの取引をオンラインで継続することができました。

中小企業庁の給与保護プログラム（PPP）ローンの申請についてAmy HondaやRoberta Chuと緊密に協力しました。彼女たちは私たちが迅速に資金を受け取れるように熱心に動いてくれました。

必要書類を届け出たのが金曜日で、翌週の火曜日には承認されました。現在はPPPのローン返済免除の部分についてAmyと共に取り組んでいます。

CHARLIE：毎週、国内外のサプライヤーに膨大な資金を送金しています。バンク・オブ・ハワイのシステムでは、これらの取引を円滑に進めることができ嬉しく思っています。このシステムは不正取引を検知し防止することにも役立っています。

Keene Fujinakaは現在、バンク・オブ・ハワイのイースト・ハワイ・マーケット & コマーシャル・バンキング・センターのディレクターですが、着任前には9年間にわたり当社の担当者でした。彼とRoberta Chuはヒロ・フィッシュ・カンパニーや他のグループ企業のすべてを熟知しています。以前はKeeneに毎週来てもらい、様々なプロジェクトの最新情報を伝えていました。銀行の助けが必要になったときに彼が事情を把握していただけるようにするためです。彼は当社の成長を大いに助けてくれました。

個人的なつながりや仕事のつながりは非常に重要です。事業が順調でも不振でもバンコアから助言を得られるため、前の年よりも今年のほうが財務的に強くなっていると確信できるのです。ヒロのような小さな町の出身で、国内だけではなく国際的な競争にも取り組むということは、バンク・オブ・ハワイの支援なしには成しえなかったでしょう。

現在、ヒロ・フィッシュ・カンパニーが米国本土や海外で名声を得ているだけでは十分ではありません。お客様にどのようにサービスを提供していくかについて常に新しいアイデアを考え出す必要があるのです。事業が好転し始めると、2020年に学んだことを応用していく必要があります。過去に行った全てをやることは無理だと学びました。学んだことを通して“ビジネスパーソン”として成長できたのです。



Charlie Umamoto
(CMU &
アソシエイツCEO、
右)と息子の
Kerry Umamoto
(同社社長)、
ハワイ州ヒロにて。

Anthony
Provenzano
(クッシュマン・
アンド・ウェイク
フィールド・
チェイニーブルックス
のシニア・バイス
プレジデント)、
妻のYukoと息子の
Raizo。



ANTHONY PROVENZANOとYUKO PROVENZANO

ANTHONY PROVENZANO :

私はこの島に深いルーツがあり、これまでの人生をこの島で過ごしています。

YUKO PROVENZANO : ハワイのことはずっと大好きでした。マサチューセッツで生まれ育ち、大学卒業後に移住してきました。子供の頃はクリスマスにハワイを訪れていました。家族の大半は日本にいたため、ハワイが都合のよい中間地点の集合場所だったためです。私の両親も数年前にハワイに移住しました。両親も息子と過ごすことができ、また家族でかけがえのない時間を過ごすこともでき、とても素敵だと思います。

家族はAnthonyにとっても私にとっても非常に重要です。息子のRaizoが生まれてすぐに、バンク・オブ・ハワイに息子のために普通預金口座を開設しました。息子の将来に向けた投資は私たちにとって重要なことです。

ANTHONY : 私の家族とバンク・オブ・ハワイの間のシナジーは、若手プロフェッショナルとしての私の成功に不可欠なものです。これまで私の成長を助けてくれ、常に人間味あふれる対応をしてくれた銀行の多くの方々に感謝しています。

プライベート・バンクのKālaiサービスでシニア・バイスプレジデントを務めるDavin Nakasatoは重要な個人的つながりです。同じ近所で共に育ち、8年生ではセント・ルイス高校に行くなど、お互いをよく知っています。高校1年生で私の父親が亡くなってからは連絡が途絶えました。私は高校時代の大半を様々な里親家庭で過ごしたり、保護施設の入退去を繰り返したりしました。ホームレスになったこともあります。17歳でGED（高卒認定）を取り、カピオラニ・コミュニティ・カレッジに進学し、十分な単位を取得した後にハワイ大学に転学しました。ハワイ大学シドラー・カレッジ・オブ・ビジネスでは不動産を中心とし

た金融を専攻し、商用不動産のキャリアをスタートさせました。働き出して数年後に、パシフィック・ビジネス・ニュースが私の手掛けた商用不動産案件についての記事を掲載しました。Davinは記事を見て連絡をくれ、つながりが復活しました。

Davinを通して、バイスプレジデント兼エグゼクティブ・ローン・オフィサーのBrenda Mitchellとも知り合い、彼女には住宅ローンについて助けてもらいました。小さなベッドルーム1つのアパートから、息子を育てるのに適した大きな家に移るまで、彼女のサポートは不可欠なものでした。Brendaは今では個人的な友人です。最近では、より低金利への借り換えや融資枠の設定をサポートしてくれました。借り換え手続きのために支店に行く必要はありませんでした。全てデジタルで完結し、これは多いに役立ちました。

YUKO : この5年間のほとんどはDavinとBrendaが担当者でした。友人のようなものです。Davinは本当に堅実で親しみの持てる人です。わからないことがあればDavinにメッセージを送り、回答を得られると思うと安心します。

住宅購入の際には、Brendaは家の住宅ローン書類にサインするために週末に向いてくれました。マラソンのスタート地点に立つようなものですから、彼女は自身自身のマラソン経験を話してくれ、迅速に処理してくれました。

ANTHONY : バンク・オブ・ハワイはハワイの銀行業界のリーダーだと思います。キャリアを通して、バンク・オブ・ハワイの様々な人との関係を構築してきましたが、今日の私があるのは皆さんのおかげです。もう1人ご紹介したいのはDirk Yoshizawaです。現在、エグゼクティブ・バイスプレジデント兼コマーシャル・バンキング・センターのマネージャーを務めています。彼は

以前は、商用不動産融資部門の所有者／入居者のサイドにいました。彼との仕事は地元シナジーをよく表しています。バンク・オブ・ハワイが取り扱ったローンを通して私は1億ドル以上の販売を達成することができました。つまり、地元企業がハワイの不動産を購入できることになったということです。

YUKO : バンク・オブ・ハワイは、Cardless Cashなどの新しいテクノロジーに対してとても未来志向で革新的だと思います。あらゆることを携帯電話で処理できる時代となり、この社会において未来志向なのは重要だと思います。携帯電話からバンキングサービスにアクセスできるのはとても便利です。私もCardless Cashを使ったことがあり、気に入っています！今は現金を使うことが少ないのであまり使っていませんが、でも利用するとCardless Cashの機能は本当に良いと感じます。

ANTHONY : 昨年、バンコアのオンラインモバイル預金機能について知りました。小切手の写真を撮るだけで支店に行かなくても預金ができるというものです。今年この機能がとても役立ちました。手数料の小切手を受け取ると、写真を撮るだけで預金できるのです。その後預金についての確認の電子メールが送られてきます。

YUKO : 信頼できる銀行です。お客様のことを気に掛けるだけではなく、その家族のことも気に掛けてくれます。話しているといつもRaizoのことを聞いてくれます。私たちだけではなく、家族全体のことを気に掛けてくれるのです。いずれ息子が未来を担うのですから、息子のことを気に掛けてくれるのはありがたいですし、安心できます。

ANTHONY : バンク・オブ・ハワイとは継続的に信頼関係や深い個人的関係を築いてきました。そのおかげでこの厳しい局面でも安心していられるのです。

連結損益計算書

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーションおよびその子会社(千ドル、ただし1株当たり金額を除く)

12月31日年度末現在	2020年	2019年
受取利息		
貸出金・リース債権利息および手数料	\$ 417,498	\$ 439,012
投資有価証券収益		
売却可能分	61,294	62,174
満期保有分	66,055	81,616
預金	14	41
ファンド貸出金	902	3,553
その他	661	1,001
受取利息合計	546,424	587,397
支払利息		
預金	32,966	68,374
現先取引売却有価証券	15,281	17,522
ファンド借入金	95	840
短期債務	62	38
その他負債	1,698	2,908
合計支払利息	50,102	89,682
純受取利息	496,322	497,715
貸倒引当金	117,800	16,000
貸倒引当金控除後純受取利息	378,522	481,715
非利息収入		
信託および資産管理	43,456	44,233
住宅金融部門	17,871	13,686
預金口座のサービス料金	24,910	30,074
手数料、為替およびその他のサービス料金	47,056	57,893
投資有価証券収益(損失)(純額)	9,932	(3,986)
確定年金および保険	3,362	6,934
銀行保有生命保険	7,388	7,015
その他	30,434	27,489
合計非利息収益	184,409	183,338
非利息経費		
給与および諸給付	207,329	216,106
純賃料	39,533	33,800
純設備費	35,448	29,295
データプロセッシング	18,499	18,757
専門家手数料	12,186	10,071
FDIC保険	5,780	5,192
その他	55,032	66,006
合計非利息経費	373,807	379,227
法人所得税引当額控除前収入	189,124	285,826
法人所得税引当額	35,320	59,913
当期純利益	\$ 153,804	\$ 225,913
基本的1株当たり利益	\$ 3.87	\$ 5.59
希薄化後1株当たり利益	\$ 3.86	\$ 5.56
1株当たり配当	\$ 2.68	\$ 2.59
基本的加重平均株数	39,726,210	40,384,328
希薄化後加重平均株数	39,892,107	40,649,570

独立登録会計事務所の報告書を含む連結財務諸表については、2020年12月31日年度末付のForm 10-K有価証券報告書にあるバンク・オブ・ハワイの年次報告書をご参照ください。

連結貸借対照表

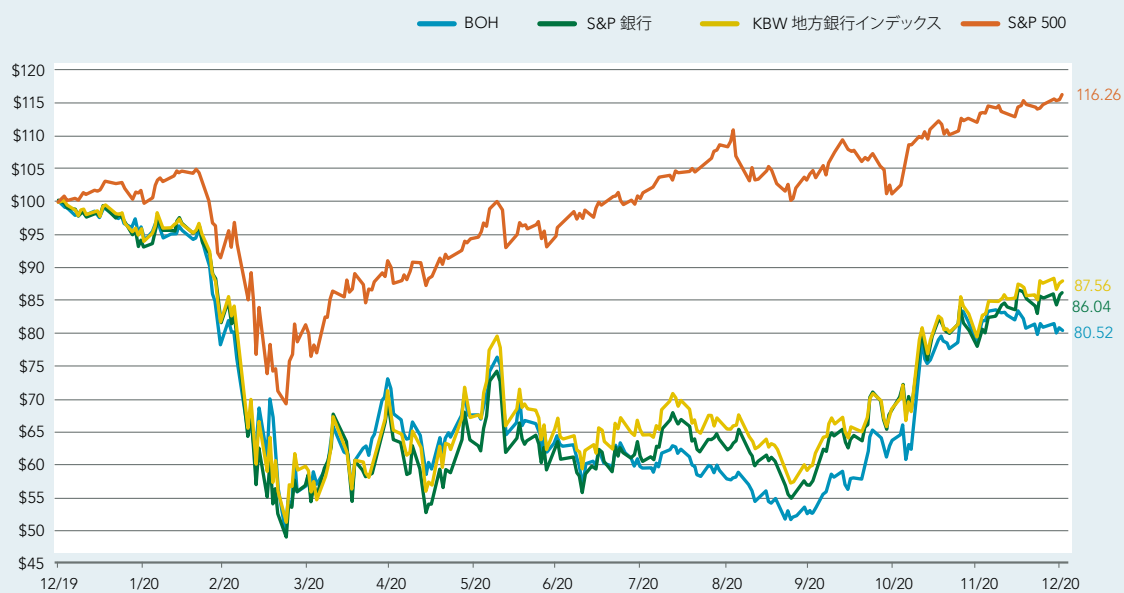
バンク・オブ・ハワイ・コーポレーションおよびその子会社(千ドル)

12月31日現在	2020年	2019年
資産の部		
他銀行での利付き預金	\$ 1,646	\$ 4,979
ファンド貸出金	333,022	254,574
投資有価証券		
売却可能分	3,791,689	2,619,003
満期保有分(時価3,348,693ドルおよび3,062,882ドル)	3,262,727	3,042,294
売却目的貸出金	82,565	39,062
貸出金とリース債権	11,940,020	10,990,892
貸倒引当金	(216,252)	(110,027)
貸出金とリース債権(純額)	11,723,768	10,880,865
収益資産合計	19,195,417	16,840,777
現金および預け金	279,420	299,105
動産・不動産(純額)	199,695	188,388
オペレーティングリース使用权資産	99,542	100,838
未収受取利息	49,303	46,476
担保権実行不動産	2,332	2,737
モーゲージサービス権	19,652	25,022
営業権	31,517	31,517
銀行保有生命保険	291,480	287,962
その他資産	435,293	272,674
資産合計	\$ 20,603,651	\$ 18,095,496
負債の部		
預金		
非利付き預金	\$ 5,749,612	\$ 4,489,525
利付き預金	4,040,733	3,127,205
貯蓄	6,759,213	6,365,321
定期	1,662,063	1,802,431
合計預り金	18,211,621	15,784,482
現先取引売却有価証券	600,590	604,306
その他負債	60,481	85,565
オペレーティングリース債務	107,412	108,210
未払退職給付	51,197	44,504
未払利息	5,117	8,040
未払税額および繰延税金	2,463	16,085
その他負債	190,263	157,472
負債合計	19,229,144	16,808,664
株主資本		
普通株式(額面0.01ドル、授權株式数 500,000,000株、 発行済/残高: 2020年12月31日付 - 58,285,624株 / 40,119,312株 2019年12月31日付 - 58,166,910株 / 40,039,695株)	580	579
資本剰余金	591,360	582,566
累積その他包括的利益(損失)	7,822	(31,112)
利益剰余金	1,811,979	1,761,415
自己株式の原価(株数: 2020年12月31日付 - 18,166,312株、 2019年12月31日付 - 18,127,215株)	(1,037,234)	(1,026,616)
株主資本合計	1,374,507	1,286,832
負債および株主資本合計	\$ 20,603,651	\$ 18,095,496

独立登録会計事務所の報告書を含む連結財務諸表については、2020年12月31日年度未付のForm 10-K有価証券報告書にあるバンク・オブ・ハワイの年次報告書をご参照ください。

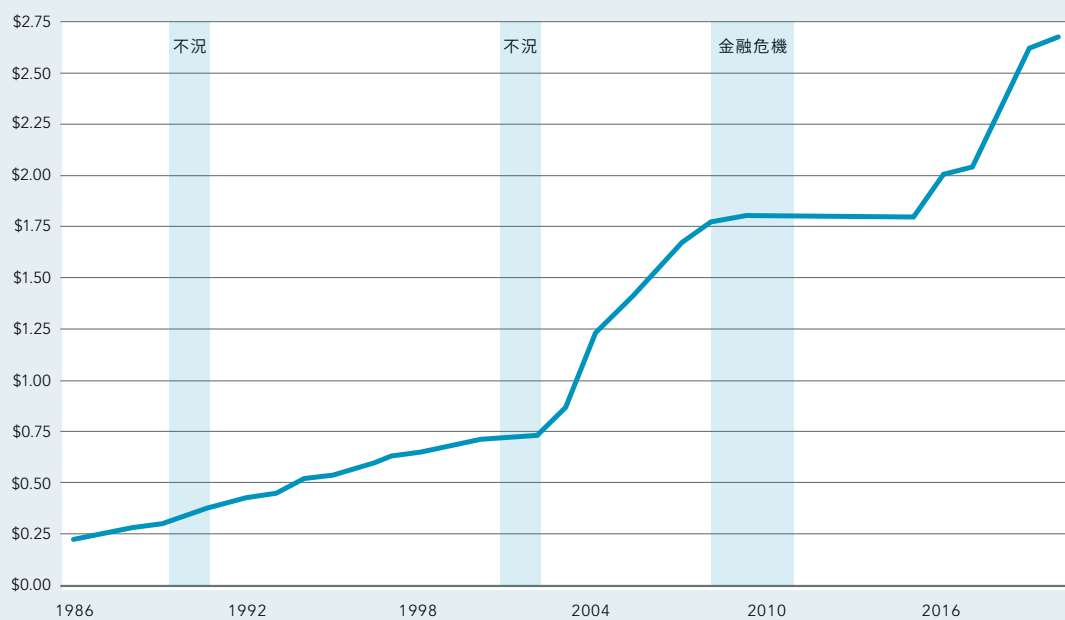
相対株価パフォーマンス

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーション／バンク・オブ・ハワイ(2020年12月31日現在)



継続的な配当金の支払い

(バンク・オブ・ハワイ・コーポレーション)



株式分割のために調整された過去の配当

データ：ハワイおよび西太平洋地域

ハワイ

2019年におけるハワイの事業者：97.7%が従業員100名未満、95.1%が従業員50名未満、64.2%が従業員5名未満。¹

2019年におけるハワイの州内総生産：957億ドル（名目ドル換算）²

20%	政府（連邦民間、軍隊、州、地方）
19.2%	不動産、賃貸、リース
10.1%	宿泊施設、飲食サービス
6.9%	医療および社会支援
6.5%	小売取引
5.8%	建設
5.7%	輸送および倉庫
4.1%	専門および技術サービス
3.5%	金融および保険

2019年におけるハワイの州内総生産に対する観光業の直接的および間接的影響（名目ドル換算）：

16.2%³

2020年7月1日時点のハワイ州住民人口：1,407,006人⁴

グアム

- アメリカ合衆国領
- 首都：ハガニア
- 住民人口：2020年7月時点の予想168,485人⁵
- 主要産業：米軍、観光、建設、積み替えサービス、コンクリート製品、出版・印刷、食品加工、繊維

北マリアナ諸島自治連邦区

- アメリカ合衆国の自治領
- 首都：サイパン
- 住民人口：2020年7月時点の予想51,433人⁵
- 主要産業：観光、銀行、建設、漁業、手工芸

パラオ

- 米国との自由な関係での立憲政体
- 首都：マルキョク
- 住民人口：2020年7月時点の予想21,685人⁵
- 主要産業：観光、漁業、自給農業

バンク・オブ・ハワイ支店／ATM

	支店および インストア 支店	ATM
ハワイ州 46	277	
オアフ島	25	191
ハワイ島	8*	37
マウイ島	7	27
カウアイ島	4	20
ラナイ島	1	1
モロカイ島	1	1
西太平洋	4	38
グアム	2	30
CNMI／サイパン	1	5
パラオ	1	3
合計	50	315

*セーフウェイ・コナ支店が2021年5月にオープン

¹ ハワイ労働労使関係局、2019年のハワイにおける雇用と賃金：
https://www.hirehawaii.com/admin/gsipub/htmlarea/uploads/LFR_QCEW_ES2019.pdf

² 米国商務省経済分析局：
<https://apps.bea.gov/itable/iTable.cfm?ReqID=70&step=1&acrdn=1>

³ ハワイ産業経済開発環境局2019年ハワイデータブック 表7.34：
<https://files.hawaii.gov/dbedt/economic/databook/2019-individual/07/073419.xls>

⁴ 米国国勢調査局人口部門、全米・地域・州・コロンビア特別区の住民人口年次試算：2010年4月1日から2020年7月1日：
<https://census.hawaii.gov/wp-content/uploads/2020/12/nst-est2020.xlsx>

⁵ 中央情報局（CIA）、ザ・ワールド・ファクトブック：<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/>

エグゼクティブコミッティ

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーション／バンク・オブ・ハワイ(2020年12月31日現在)

バンク・オブ・ハワイのエグゼクティブコミッティは銀行の主要部門を代表し、全体的な戦略と業績を担っています。



Peter S. Ho
会長、社長兼
最高経営責任者



Sharon M. Crofts
副会長
クライアント・ソリューションズ・
グループ



Wayne Y. Hamano
副会長



James C. Polk
副会長兼最高コマーシャル・
バンキング責任者



Mark A. Rossi
副会長、最高管理責任者、法務
顧問兼事務部長



Mary E. Sellers
副会長兼最高リスク責任者



Dean Y. Shigemura
副会長兼最高財務責任者



Matthew K.M. Emerson
代表取締役副社長
個人向け融資および預金



Susan L. Ing
代表取締役副社長
最高マーケティング責任者



Patrick M. McGuirk
代表取締役副社長
最高法務顧問兼事務長



Taryn L. Salmon
代表取締役副社長
最高情報管理責任者



Dana S. Takushi
代表取締役副社長
個人バンキング・グループ



Ruth L. Erickson
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
Eコマースおよび需要センター

オペレーティングコミッティ

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーション／
バンク・オブ・ハワイ(2020年12月31日
現在)

バンク・オブ・ハワイのオペレーティングコミッティは、様々な事業分野の企業スタッフ部門を代表する15名のリーダーで構成され、銀行の日常業務を担っています。

Thomas W. Butler
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
アシスタント
トレジャラー

Kristi N. Lefforge
代表取締役副社長
信託サービスおよび
バンコ・インベスト
メント・サービス・
インク

Guy C. Churchill
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
コーポレート・
バンキングおよび
商用不動産部門

James K.M. Moniz
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
住宅金融バンキング

D. Jeff Graves
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
最高テクノロジー
責任者

Lacey Nakaguma
シニア・バイス
プレジデント
最高監査
エグゼクティブ

Jill F.S. Higa
代表取締役副社長
ブランチ・バンキング

Craig A. Norris
代表取締役副社長
最高信用責任者

Ed Hudson
代表取締役副社長
最高人事責任者

Teik Ramsey
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
エンタープライズ・
オペレーション

Vance H. Jones
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
最高情報セキュリティ
責任者

Luke W.T. Yeh
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
エンタープライズ・
クレジットリスク・
アナリティクス

Edward C.S. Kim
エグゼクティブ・
バイスプレジデント、
消費者融資

Dirk K. Yoshizawa
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
コマーシャル・
バンキング・センター
- ハワイ

Jennifer Lam
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
最高オペレーショナル
リスク責任者

取締役会

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーション／バンク・オブ・ハワイ(2020年12月31日現在)



Peter S. Ho
会長、社長兼
最高経営責任者、
バンク・オブ・ハワイ・
コーポレーション
およびバンク・オブ・
ハワイ



Raymond P. Vara
社長兼最高経営責
任者 ハワイ・
パシフィック・ヘルス



S. Haunani Apoliona
元トラスティ
ハワイ人問題事務局



Mark A. Burak
副社長(退職)
バンク・オブ・アメリカ



John C. Erickson
元副会長
ユニオンバンク



Joshua D. Feldman
社長兼最高経営
責任者
トリ・リチャード



Michelle E. Hulst
エグゼクティブ・
バイスプレジデント
グローバルデータ&
ストラテジー、
ザ・トレード・デスク



Kent T. Lucien
元副会長兼最高戦略
責任者、バンク・オブ・
ハワイ・コーポレー
ションおよびバンク・
オブ・ハワイ



Alicia E. Moy
社長兼最高経営
責任者
ハワイ・ガス



Victor K. Nichols
元会長
ハーランド・クラーク・
ホールディングス



Barbara J. Tanabe
オーナー、ホアケア・
コミュニケーションズ
合同会社



Dana M. Tokioka
副社長
アトラス・
インシュランス・
エージェンシー・
インク



Robert W. Wo
オーナー兼
ディレクター
C・S・ウォー&
サンズ株式会社



**Mary G.F.
Bitterman**
名誉取締役
社長兼取締役
ザ・バーナード・
オツシャー
財団



Robert A. Huret
名誉取締役創設者
FTVキャピタル

株主情報

将来の見通しに関する記述

本報告書には、当行がサービスを提供する分野およびその他の分野における経済環境および事業環境、将来の期間における信用力およびその他の財務上および事業上の事項に関する将来の見通しに関する記述が記載されています。将来の見通しに関する記述は様々な前提に基づいています。その中には正確ではないものが含まれている可能性があり、様々なリスクや不確実さがあるために実際の結果は見通しと大きく異なる場合があります。そのようなリスクや不確実さには次のものが含まれますがこれに限定されるものではありません：1) 国内外または地元の経済状況が予想と異なることがあり、特にハワイの観光業にマイナスの影響を及ぼす出来事があり得ます；2) 新型コロナウイルスの流行による複合的な影響（ハワイへの観光客の減少、政府による命令、旅行に対するその他の制限または制約の期間もしくは範囲、国内外の経済や信用市場の変動、労働者の長期欠勤、隔離、その他旅行や健康に関する制限、新型コロナ流行の期間や深刻さ、その後の回復の速度や政府・企業・個人によるコロナ禍の影響軽減措置の効果）；3) 信用市場や純利鞘を確保できかどうかといった当行の能力に影響を与えかねない市場金利の変化；4) 当行の信用力およびリスクプロファイル（これによって信用損失の引き当てに求められる水準が増減することがあります）；5) 立法上および規制上のイニシアティブ、特に2010年ドッド＝フランク・ウォール街改革・消費者保護法（「ドッド・フランク法」）および2018年経済成長・規制緩和・消費者保護法の影響；6) 提案済みの普通株式の自社株買いの金額およびタイミングの変更；7) 米国および海外における証券市場、パブリック債券市場、その他資本市場の予期しない変化、これにはベンチマーク金利であるロンドン・インターバンク金利（LIBOR）の廃止予定が含まれますがこれに限定されるものではありません；8) 当行が業務展開している市場における金融政策および財政政策の変更；9) パーセル銀行監督委員会および米国規制当局が採択した要件に基づき、十分な流動性および資本を維持するためのコストの増加またはそれに向けた当行の能力；10) 会計標準の変更；11) 公法115－97（いわゆる減税・雇用法）を含む税法や規制の変更、またはそのような法律や規制の解釈；12) 当行の運用システム、情報システムまたはインフラ、または販売業者、第三者ベンダーおよびその他のサービスプロバイダーの過失または侵害；13) 顧客口座管理、総勘定元帳処理、および貸付または預金システムに不具合または混乱を発生させることになる当行の情報システムのセキュリティの中断または侵害；14) 自然災害、世情不安または悪天候、公衆衛生、および当行ならびに顧客業務に影響を及ぼすまたはハワイの観光業にマイナスの影響を及ぼすその他の条件；15) 金融サービスおよび商品に対する市場の競争圧力；16) 当行の評判を損なうおそれのある実際の行為またはそのような疑いのある行為；17) 費用、経費、和解、判決を含む当行への訴訟および規制調査の影響。投資家は、これらのリスクと不確実性を考慮したうえで、将来の見通しに関する記述を実際の結果の予測として過度に信頼すべきではありません。実際の業績やこのような将来の見通しに関する記述から大きく異なる可能性のあるリスクや不確実性に関する詳細な説明については、2020年12月31日を期末とする年度のForm 10-K年次報告書、および、それ以降米国証券取引委員会に提出された報告に記載されているリスク要因を参照してください。「思う」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「目標とする」などの表現は、将来の見通しに関する記述を特定することを目的としていますが、そのような記述を特定する排他的手段ではありません。当行では、将来の事象や状況について表すため、将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。

本社

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーション
130 Merchant Street Honolulu, Hawaii 96813

オンライン年次総会

オンライン株主年次総会が2021年4月30日（金）午前8時30分（ハワイ標準時間）に開催されます。オンライン年次総会へのアクセス情報は、当行の2021年委任状に記載されています。

証券代行機関および株式登録機関

Computershare Investor Services, LLC
250 Royall Street, Canton, MA 02021

ニューヨーク証券取引所で上場されている普通株式：BOH

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーションの普通株式は、ニューヨーク証券取引所にて証券コードBOHで上場・取引されており、主要ニュースで「バンク・オブ・ハワイ」として日常的に取り上げられています。

配当再投資および株式購入制度（DRP）

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーションのDRPにより、既存株主は、株式の配当金を再投資、または、選択性の現金支払いにより、当行株式の普通株式を購入することができます。

- 個人がDRPに参加するためには、少なくとも1株の株式を保有する必要があります。
- 株式は、購入日を最終日とする5取引日の平均をもとに各月の10営業日目に購入されます。
- 株式購入の最低支払金額は25ドルで、最高金額は各四半期5,000ドルです。
- 株式購入および株券の保管について手数料は発生しません。手数料はDRPの株式の売却により評価されます。

バンク・オブ・ハワイ・コーポレーションのDRPに関する詳細情報は、www.boh.comからオンラインで、もしくはComputershare Investor Services LLC宛てに電話番号（1-888-660-5443）にてご確認ください。

お問い合わせ

株式譲渡サービス、株式保有または配当金再投資に関してご質問がある株主の方は、Computershare Investor Services LLC宛てに、電話番号（1-888-660-5443）ください。受付時間は、米国中部標準時午前7時から午後5時までです。

財務情報を希望する投資家およびアナリストの皆様

Janelle Higa
インベスターリレーションズ、マネージャー
電話：1-808-694-8007

一般的なお問い合わせ

電話：1-888-643-3888
www.boh.com

